

傷の治し方、治り方 広報げろ 2014.09

傷の治し方、治り方

正常な肝臓は臓器移植などで半分以上切り取っても数週間で元の大きさを取り戻します。指の先端は爪を含めて切断されても元の形に近い状態に再生します。このように組織にはある程度の再生能力がありますが再生には湿潤環境が必要で傷口を乾かすことは再生のために大きな障害となります。

◎湿潤療法

肝臓は腹腔内にあり肝表面は切断面も含めて湿潤な環境にあり乾燥することはありません。肝臓の切断面は隣接する臓器の壁で保護されながら湿潤環境で再生します。

指の先端を切断して病院を受診すると、まず局所麻酔で痛みを取ってから止血操作を行いながら徹底的に水道水で洗浄します。骨が露出しているそのまま切断面を水分を通さない被覆材（滅菌シート。料理用ラップフィルムやアルミ фольドなども安価で手に入りやすく手軽な材料として使われます）で覆います。約一か月で皮下組織が再生し表面が皮膚でおおわれ爪の再生へと進みます。その間、週に1～2回覆いを外し水道水で洗浄し、染み出た体液を軽く洗い流してまた同様に覆います。ガーゼを使わないので覆いは簡単にはがすことができます。消毒液などの薬は細胞を破壊し、痛みを増すなど害が多く使いません。直接ガーゼで覆って水分を吸収させ、傷を乾燥させることは細胞の再生に大きな障害となります。また、傷を直接ガーゼで覆うと、ガーゼが癒着し、これををはがすとき出血したり痛みを伴うことがあり、せっかく再生してきた組織を壊してしまいます。

◎すり傷や浅い切り傷の処置

必要に応じて局所麻酔を行い水道水で洗浄します。消毒薬は使いません。被覆材で覆いその隙間から染み出してくる体液を吸収するようにガーゼや水分を吸収しやすいペーパーをかぶせて保護します。創部を乾燥させないようにしながら1日に1～2回同様に洗浄被覆処置を繰り返します。1週間以内に皮膚が再生し治癒します。

◎やけどの処置

皮膚が発赤する程度のやけどは痛みがなくなるまで流水などで十分に冷やすことです。水疱ができたやけどは水洗もかねて水道など冷水で冷やします。冷やし方が足りないとやけどは進行します。衣服は無理に脱がせないでその上から冷やしながらか病院へ受診しましょう。病院でも痛みがなくなるまで冷やし続け十分に洗浄し、必要に応じて炎症を抑え、痛みを軽減する薬剤を塗布し、被覆材で覆って、乾燥、汚染を防ぎます。この時も消毒剤は使わず、1日1～2回の洗浄、被覆を繰り返します。1週間ほどで皮膚が再生し治癒します。

◎咬傷、汚染創

皮下脂肪が露出するような傷、動物による咬傷、土などに汚染された傷は、できればよく流水で洗い、病院を受診しましょう。病院ではさらによく洗浄し、場合によっては縫合処置を行い、必要に応じて破傷風の予防処置、抗生物質の投与などを行います・

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦